

第二部 人口ビジョン



第 1 章 人口の現状分析

人口動向分析

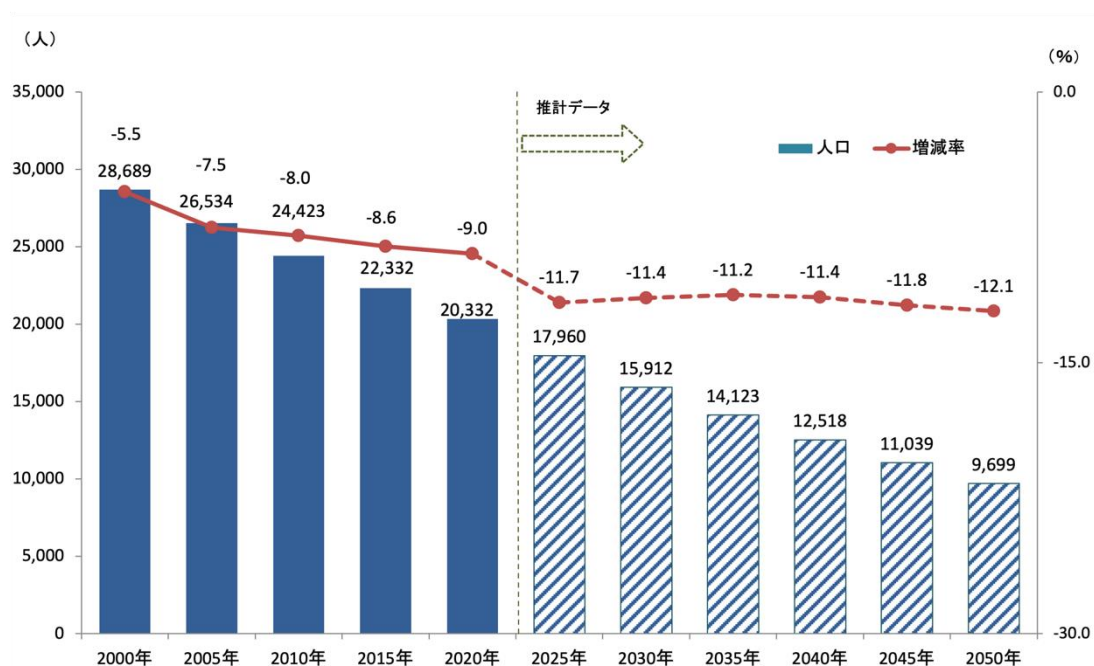
1. 人口

市内の人口は減少が続き、令和 2 年発行の「第 2 期 竹田市地方創生 TOP 総合戦略」内記載の国立社会保障・人口問題研究所の予測よりも悪化しています。

令和 2 年時点の 2020 年人口の予測値は 20,346 人でしたが、実際には 20,332 人と 14 人下回っています。

このまま推移すると、2035 年には市内人口は 14,123 人にまで減少し、2000 年時点の 28,689 人と比較して半数以下に落ち込むと予想されています。

図 4 竹田市の総人口の推移



資料) 総務省「国勢調査」

2025年以降の推計データは国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2023年12月)」





シミュレーション 1：合計特殊出生率が図 1 の予想より上昇した場合、2050 年の人口は 10,092 人、2070 年には 6,406 人を維持できると予測されています。

シミュレーション 2：さらに、合計特殊出生率の上昇に加え、人口移動を抑制できた場合には、2050 年の人口は 12,054 人、2070 年には 9,715 人を維持できる見込みです。

これらから、人口減少を食い止めるためには、まずは流入超過にまで流入を優先的に増やし、市内での人の交流を促進させ、出生率増加を図ることが肝要であることが読み取れます。

図 5 竹田市人口の将来推計の比較



シミュレーション 1	社人研推計をベースに、仮に合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の 2.1）まで上昇した場合のシミュレーション。
シミュレーション 2	社人研推計をベースに、合計特殊出生率が人口置換水準（2.1）まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした場合（転入・転出数が同数となり移動がゼロとなった場合）のシミュレーション。

第 1 章 人口の現状分析

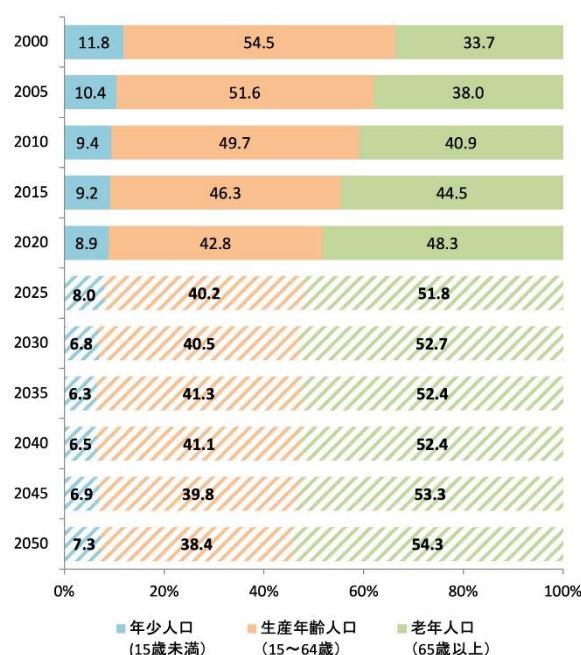
2. 年齢 3 区分別人口の推移

本市の老年人口（65 歳以上）の割合は、2025 年時点で人口全体の半数を上回る 51.8% となり、年々増加する見込みです。

これは大分県全体の市町村間で比較しても、姫島村に次いで 2 番目に高い高齢化率となっています。

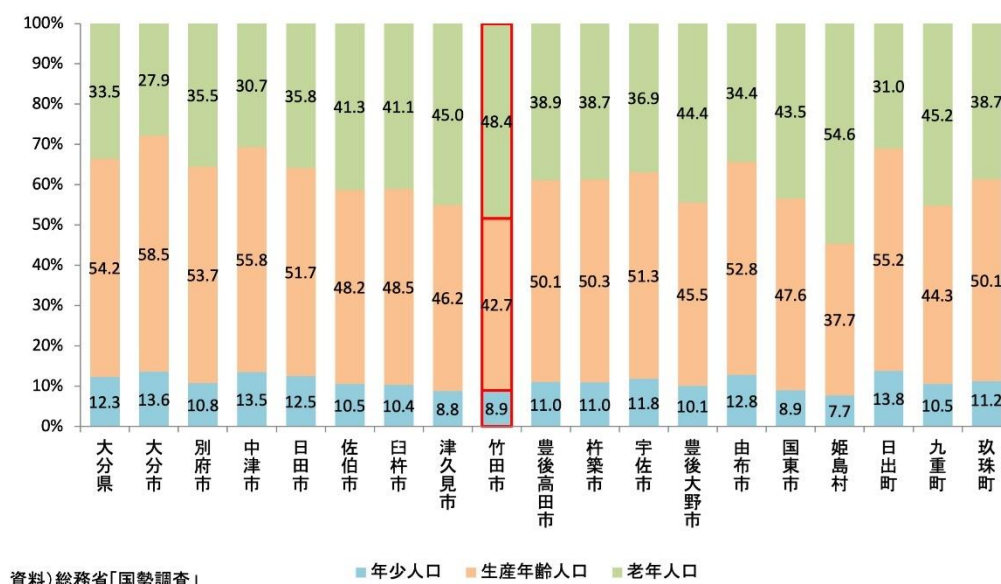
一方、生産年齢人口（15～64 歳）は 2025～2035 年にかけて微増するものの、以降は減少傾向が見込まれます。

図 6 年齢 3 区分別人口（2020 年）



注) 不詳者は90歳以上に加えて算出
資料) 総務省「国勢調査」、2025年以降の推計データは国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

図 7 年齢 3 区分別人口全市町村（2020 年）



資料) 総務省「国勢調査」

年少人口 生産年齢人口 老年人口





3. 人口動態の推移

本市の自然動態（出生と死亡の差）と社会動態（転入と転出の差）は、共に減少傾向にあります。
 自然動態のうち、出生数は減少傾向にあり、死亡数は横ばいで推移しています。
 社会動態では、転入数は直近で微増しているが、転出数は多少の増減はあるものの9年間大きな変動はありません。

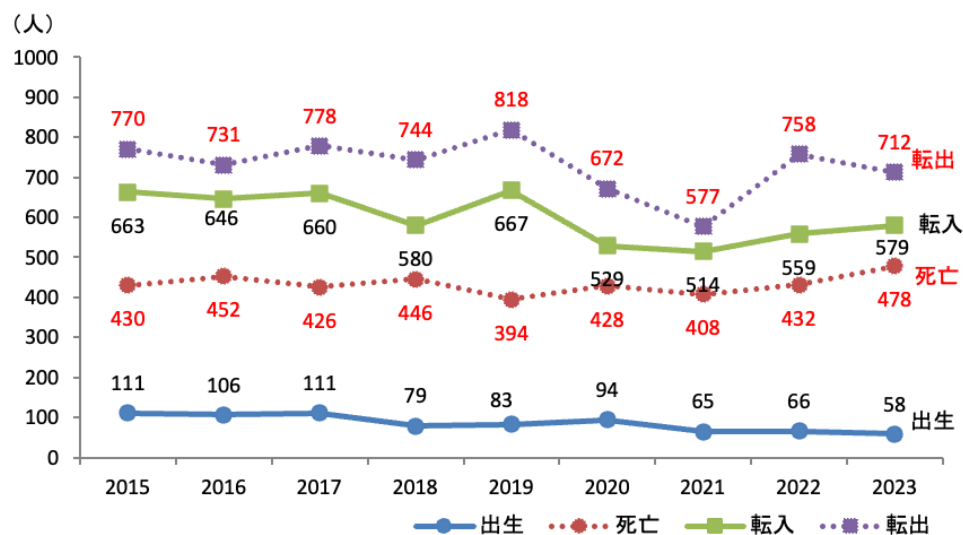
図 8 人口動態の推移

(単位:人)

年度	自然動態			社会動態			人口動態		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	増加	減少	増減
2015年度	111	430	▲ 319	663	770	▲ 107	774	1200	▲ 426
2016年度	106	452	▲ 346	646	731	▲ 85	752	1183	▲ 431
2017年度	111	426	▲ 315	660	778	▲ 118	771	1204	▲ 433
2018年度	79	446	▲ 367	580	744	▲ 164	659	1190	▲ 531
2019年度	83	394	▲ 311	667	818	▲ 151	750	1212	▲ 462
2020年度	94	428	▲ 334	529	672	▲ 143	623	1100	▲ 477
2021年度	65	408	▲ 343	514	577	▲ 63	579	985	▲ 406
2022年度	66	432	▲ 366	559	758	▲ 199	625	1190	▲ 565
2023年度	58	478	▲ 420	579	712	▲ 133	637	1190	▲ 553

資料) 竹田市「住民基本台帳」

図 9 自然動態・社会動態の推移



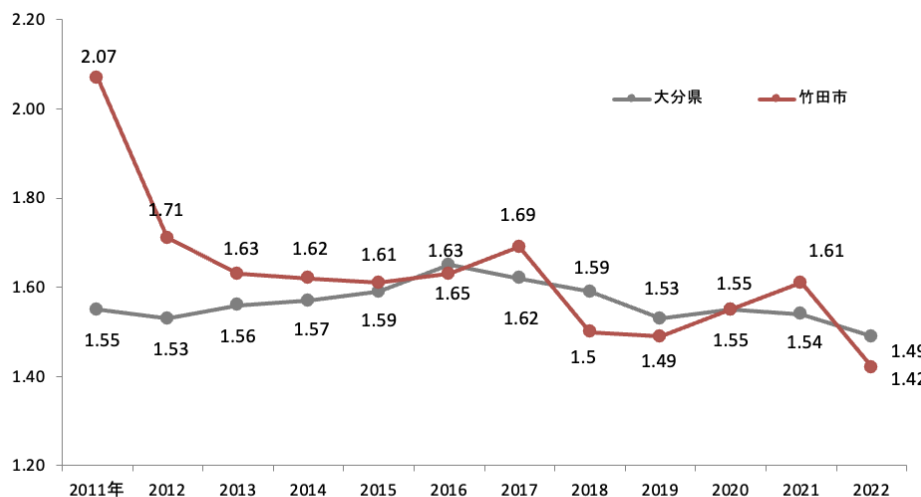
第 1 章 人口の現状分析

4. 合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は、2011 年（2007-2011 平均）の 2.07 をピークに減少傾向にあり、2022 年（2018-2022 平均）には 1.42 まで下落しています。

以前は大分県平均より高い水準で推移していましたが、近年は大分県の合計特殊出生率を下回り、大分県内では 18 自治体中 12 位に位置しています。

図 10 竹田市の合計特殊出生率の推移

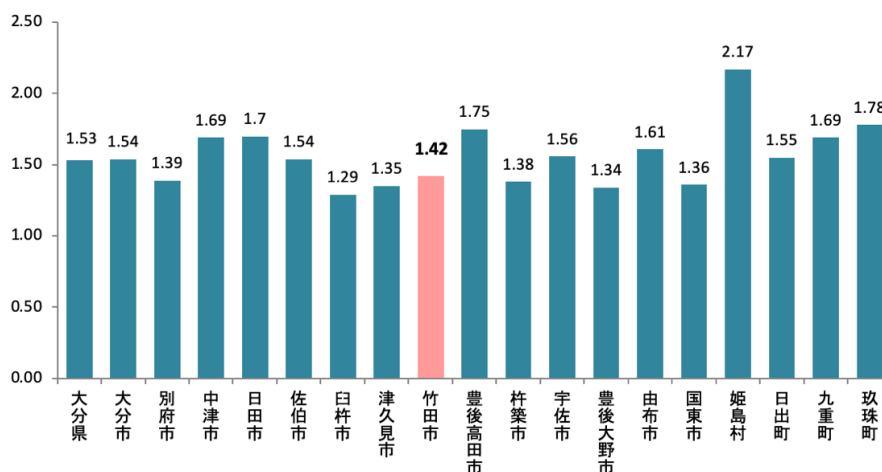


注) 竹田市の各年の合計特殊出生率は当該年以前5年間の平均値

大分県は当該年（単年）の数字

資料) 大分県「合計特殊出生率 市町村・年次別」

図 11 県内市町村別 合計特殊出生率（2018-2022 年間の平均）



資料) 大分県「合計特殊出生率 市町村・年次別」



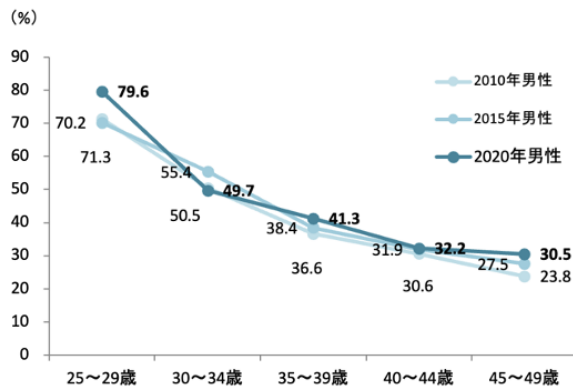


5. 未婚率の推移

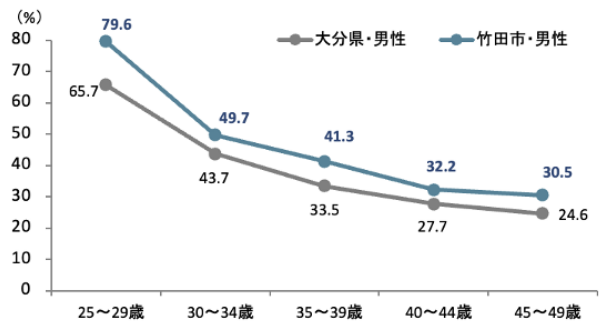
本市の2020年の25～49歳の未婚率をみると、男性は43.6%、女性は29.4%となっており、大分県全体の男性が36.0%、女性が27.2%を男女ともに上回っていますが、特に男性においては差が顕著です。

また、男女とも25～29歳の年齢層で未婚率が上昇しており、未婚率の上昇が人口減少の要因の一つと考えられます。

図 12 未婚率：男性

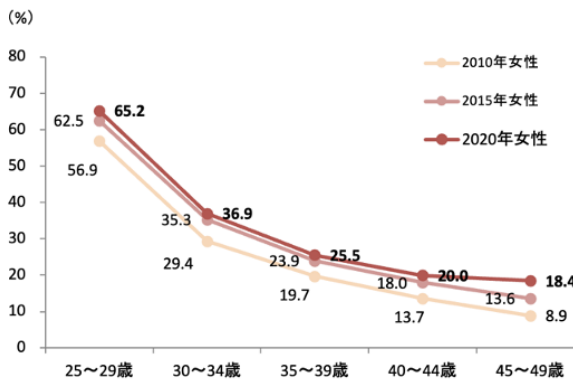


資料) 総務省「国勢調査」

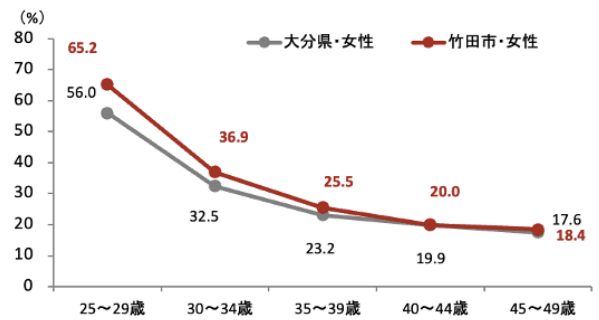


資料) 総務省「国勢調査」

図 13 未婚率：女性



資料) 総務省「国勢調査」



資料) 総務省「国勢調査」

第 1 章 人口の現状分析

6. 平均寿命と健康寿命

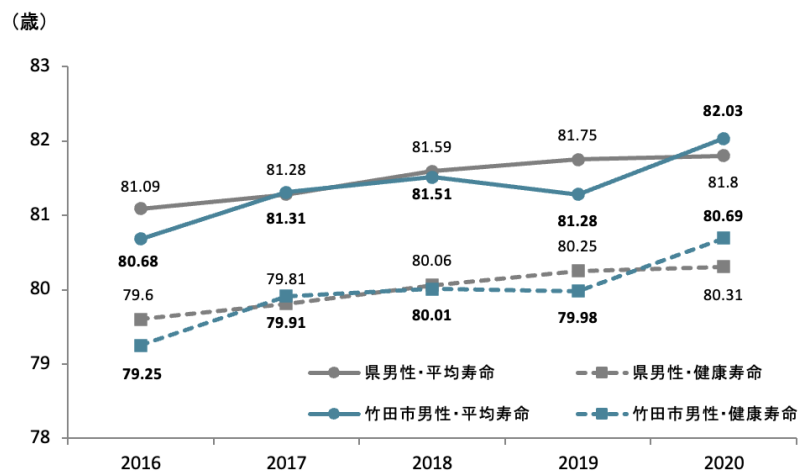
ここで取り上げる「平均寿命」は0歳の子どもの何年生きられるかという期待値を、「健康寿命」は自立して健康（大分県の定義による「要介護2以上に認定されない」ことを前提）に生きられる期待値を指標としたものです。また平均寿命と健康寿命の差は、介護が必要など日常生活動作に制限がある期間を意味しています。

本市の2020年の平均寿命は、男性が82.03歳、女性が88.15歳、健康寿命は男性が80.69歳、女性が85.09歳となっています。

平均寿命と健康寿命の差が小さければ健康に生きられる期間が長いことを表しますが、本市では男性が1.34年、女性が3.06年となっています。

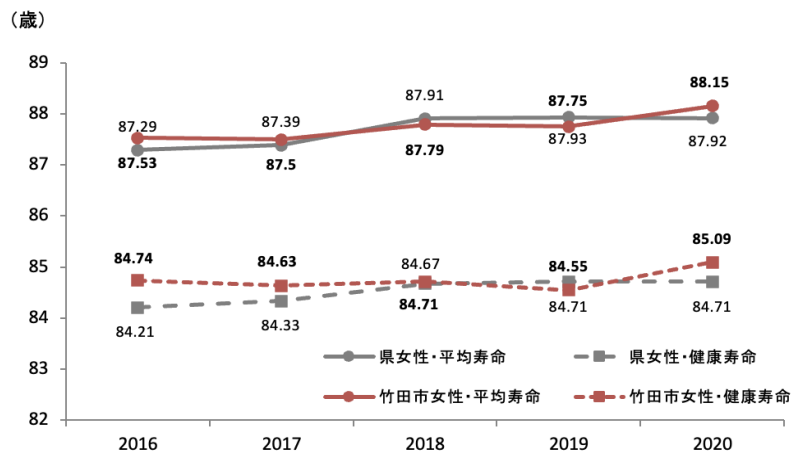
この差は大分県全体でみると男性が1.49年、女性が3.21年であり、本市の方が短くなっています。

図 14 男性 平均寿命・健康寿命の推移



注1) 平均寿命、健康寿命とも当該年以前5年間の平均
注2) 健康寿命は健康の定義により異なり、大分県健康指標計算システムでは「介護保険制度による要介護2以上に認定されていなければ健康」と定義し健康寿命を計算
資料) 大分県福祉保健企画課

図 15 女性 平均寿命・健康寿命の推移



注1) 平均寿命、健康寿命とも当該年以前5年間の平均
注2) 健康寿命は健康の定義により異なり、大分県健康指標計算システムでは「介護保険制度による要介護2以上に認定されていなければ健康」と定義し健康寿命を計算
資料) 大分県福祉保健企画課





7. 年齢階級別人口移動の推移

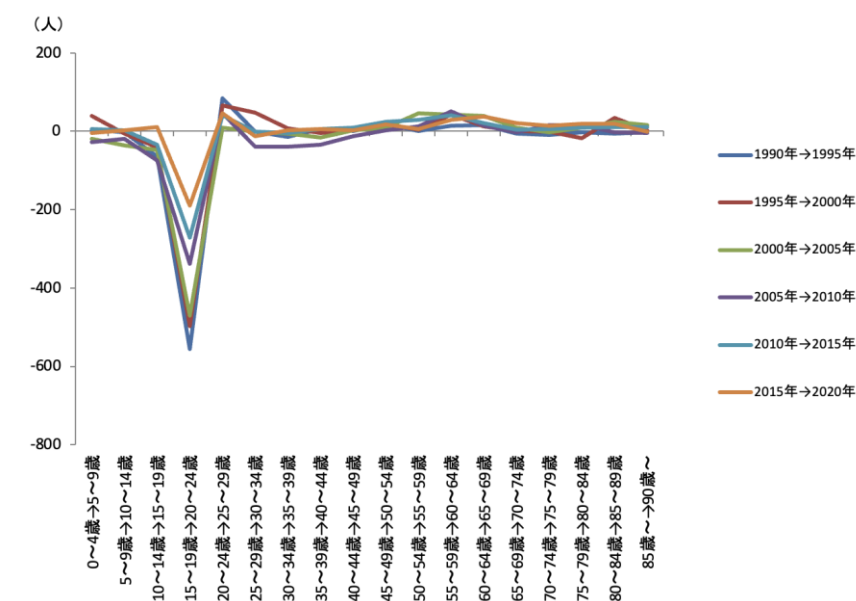
男女共に転出超過の傾向は1990年→1995年をピークに減少傾向にあります。

男性は「15～19歳→20～24歳」の年齢層で市外への進学や就職が要因と考えられる大幅な転出超過が起きていますが、その後はU I Jターンや定年退職後のUターンなど小幅な転入超過が見られます。

女性は、男性と同様の理由から10歳代、20歳代の若年層の期間にわたって転出超過が起こっており、その後も転出超過の傾向が続きます。

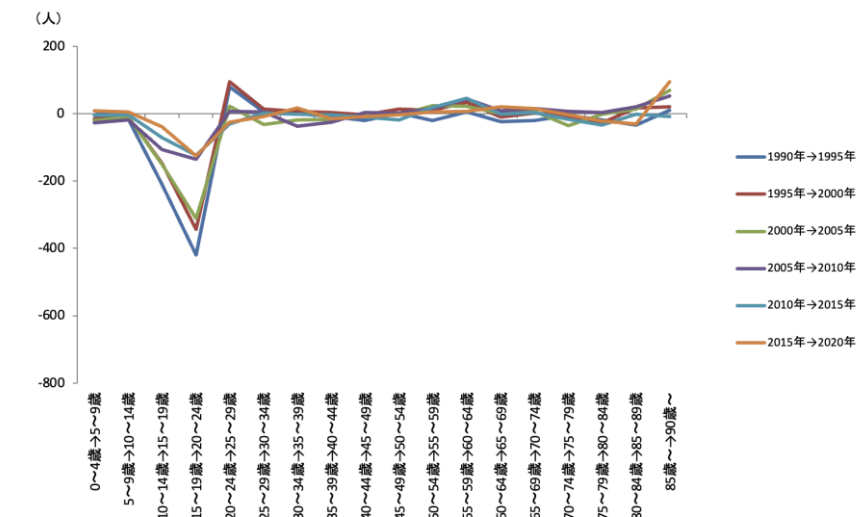
進学や就職時期の大幅な転出超過から、その後の年齢での転入超過が少なくなっており、特に女性の10～40歳代の出産・子育て期における転出超過は将来的に人口減少が拡大することが予想されます。

図 16 男性 年齢階級別人口移動の推移



資料) 総務省「国勢調査」

図 17 女性 年齢階級別人口移動の推移



資料) 総務省「国勢調査」

第 1 章 人口の現状分析

8. 地域別人口移動の推移

人口移動（転入出）の状況をみると、県内においては大分市が転入出ともに最も多く、次いで隣接する豊後大野市、別府市、由布市と続いています。

県外においては、転入出ともに福岡県が最も多く、次いで熊本県、その他県外となっていますが、2018年時点では転入超過であった福岡県、熊本県が転出超過となっています。

図 18 県内転入出の内訳

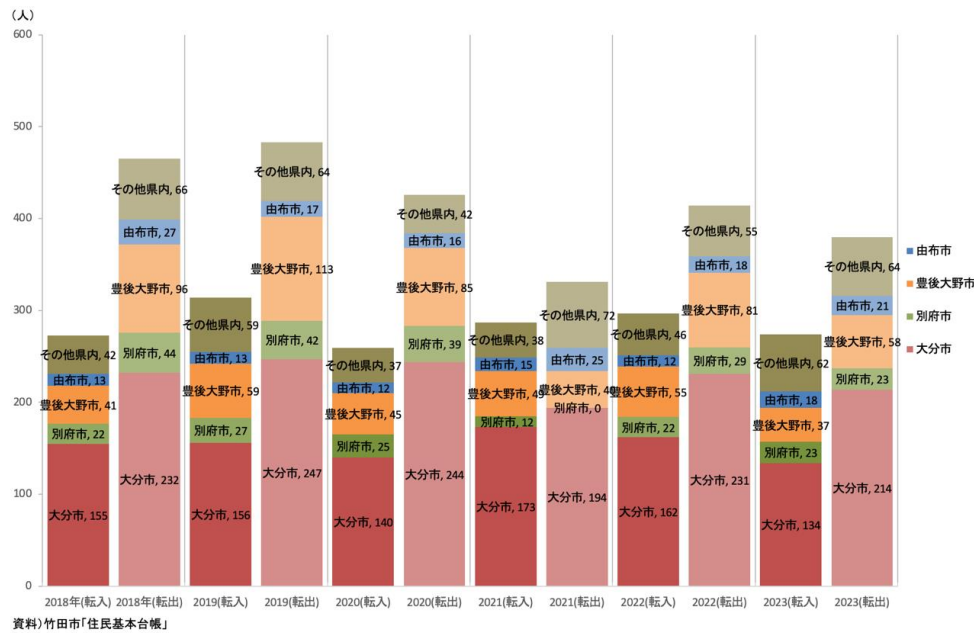
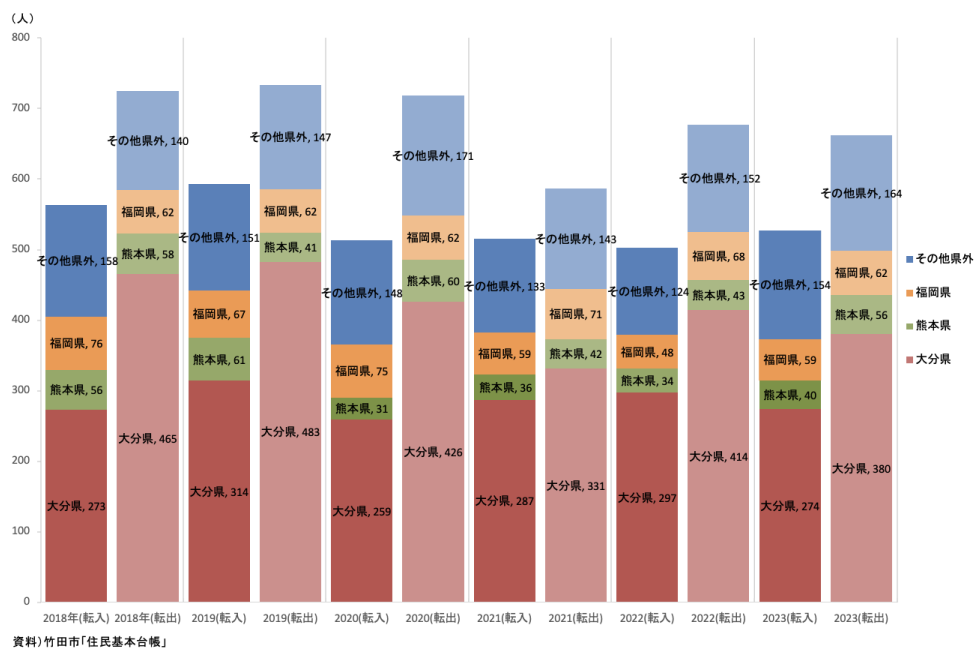


図 19 全国転入出の内訳





9. 通勤・通学からみた、竹田市と他市間の人口移動

竹田市に常住（居住）する就業者・通学者は 11,152 人で、就業者は 10,493 人、通学者は 659 人です。

うち、市内を従業地・通学地とする人は 7,587 人（88.2%）であり、市外では豊後大野市（534 人）、大分市（445 人）、熊本県（114 人）が主な通勤・通学先となっています。

一方、竹田市内の事業所や学校等に通う就業者・通学者は 12,264 人で、就業者は 11,508 人、通学者は 756 人です。

そのうち、竹田市内に居住するのは 7,587 人（76.1%）であり、市外では豊後大野市（1,230 人）、大分市（736 人）、熊本県（12 人）から通勤・通学しています。

本市の昼夜間人口比率（105.5）をみても、本市は夜間人口よりも昼間人口の方が多く、周辺市町村の中でも特に高い傾向にあります。

図 20 通勤・通学による人口移動（2020 年）

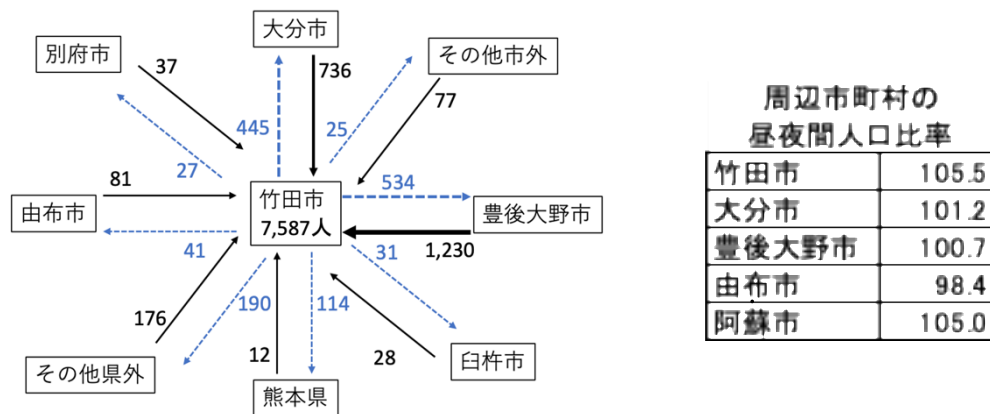
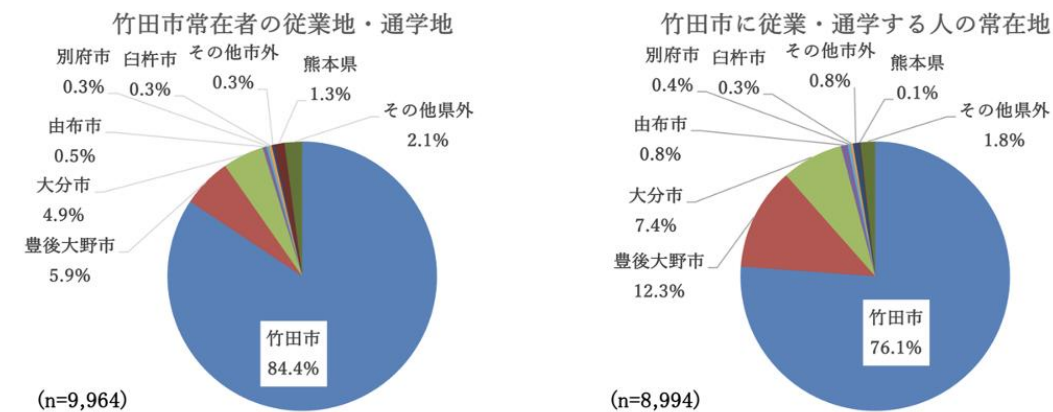


図 21 従業地・通学地及び常在地（2020 年）



資料）総務省「国勢調査（2020）」

第 1 章 人口の現状分析

<参考資料> 資料：地域経済分析システムリーサスより From-to 分析

(定住人口) 2023

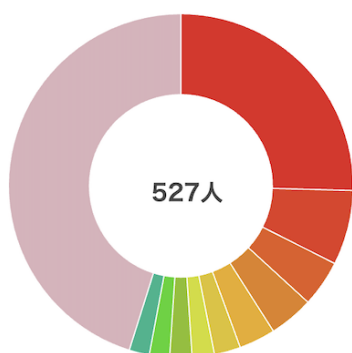
※総務省「住民基本台帳人口移動報告」のデータを用いているため前頁までの転入出数とは数字が異なる。

From-To分析 (定住人口)

大分県 竹田市
2023年

転入数内訳

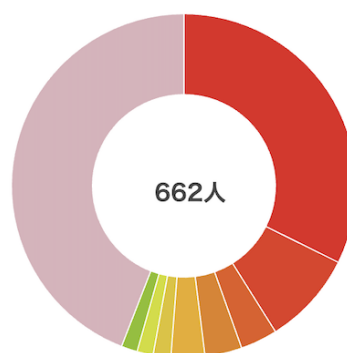
総数 総数



- 1位 大分県大分市 134人 (25.43%)
- 2位 大分県豊後大野市 37人 (7.02%)
- 3位 大分県別府市 23人 (4.36%)
- 4位 福岡県福岡市 22人 (4.17%)
- 5位 大分県由布市 18人 (3.42%)
- 6位 福岡県北九州市 13人 (2.47%)
- 7位 熊本県阿蘇市 11人 (2.09%)
- 8位 熊本県熊本市 11人 (2.09%)
- 9位 熊本県八代市 10人 (1.90%)
- 10位 大分県臼杵市 10人 (1.90%)

転出数内訳

総数 総数



- 1位 大分県大分市 214人 (32.33%)
- 2位 大分県豊後大野市 58人 (8.76%)
- 3位 大分県別府市 23人 (3.47%)
- 4位 熊本県熊本市 23人 (3.47%)
- 5位 大分県由布市 21人 (3.17%)
- 6位 大分県臼杵市 11人 (1.66%)
- 7位 大分県佐伯市 10人 (1.51%)
- 8位 福岡県北九州市 10人 (1.51%)
- その他 292人 (44.11%)

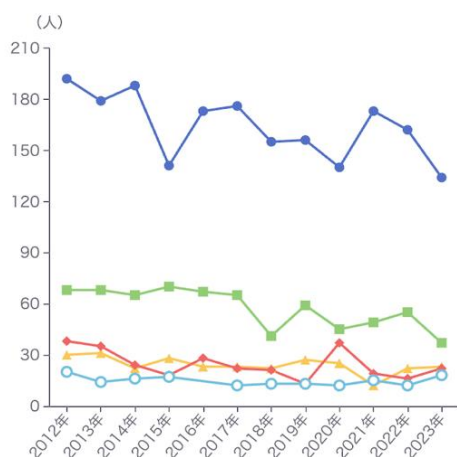
主な転出超過先

- ・大分市 80 人
- ・豊後大野市 21 人
- ・熊本市 12 人

転入数上位地域

総数 総数

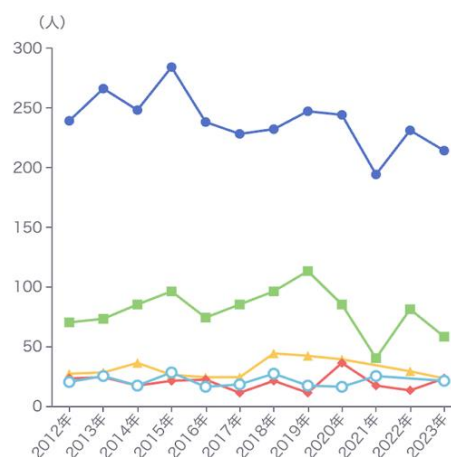
● 大分市 ■ 豊後大野市 ★ 別府市 ◆ 福岡市 ○ 由布市



転出数上位地域

総数 総数

● 大分市 ■ 豊後大野市 ★ 別府市 ◆ 熊本市 ○ 由布市





10. 産業別就業人口

本市の就業者数は減少傾向が続いており、2020年には10,506人と2015年比で918人（▲8.0%）減少しています。

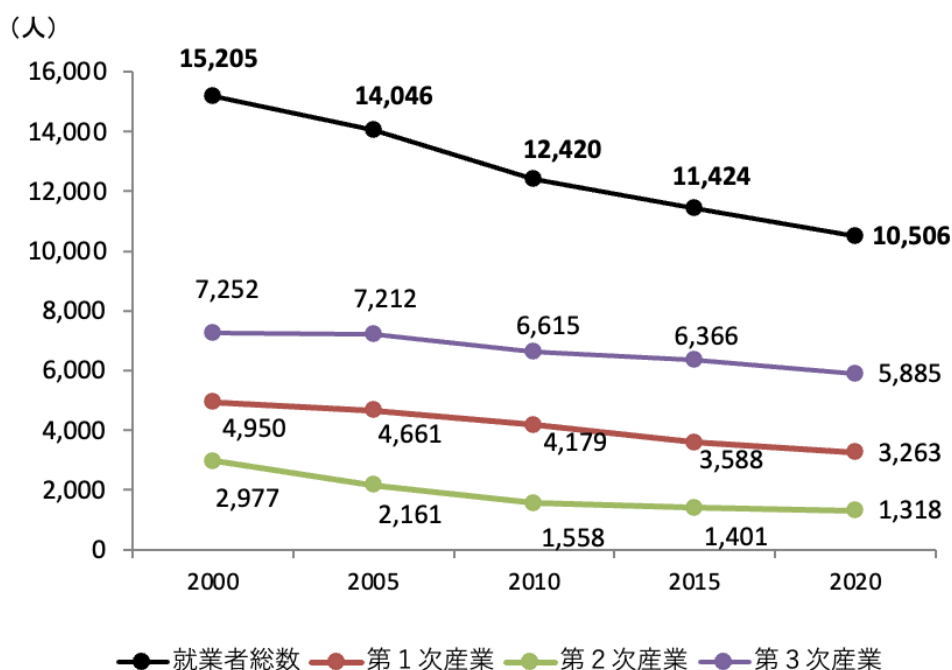
産業別に見ると、第1次産業が3,263人（2015年比▲9.1%）、第2次産業が1,318人（同▲6.0%）、第3次産業が5,885人（同▲8.0%）と、特に第1次産業の就業者数の減少が顕著です。

2020年の産業区分別就業者の構成比を大分県と比較すると、第1次産業就業者の構成比は31.1%と大分県（6.1%）を大きく上回っています。

一方、第2次産業は12.5%（大分県22.6%）、第3次産業は56.0%（大分県69.3%）とともに大分県より構成比は低くなっています。

減少傾向は続いているものの、依然として第1次産業が本市の基幹産業であるといえます。

図 22 産業別就業者数の推移（3区分）



資料)総務省「国勢調査」

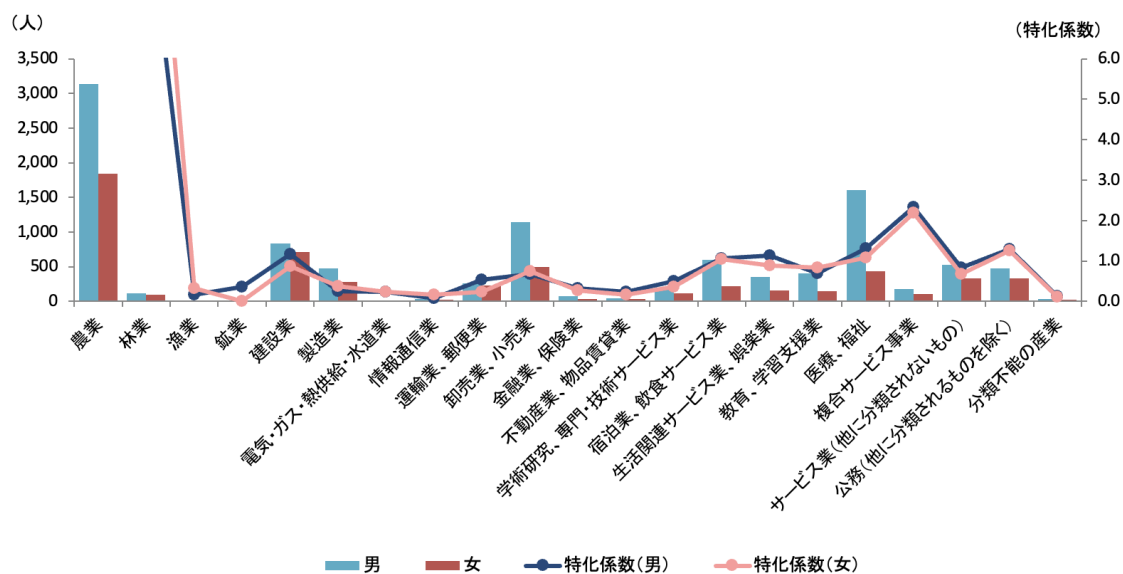
第 1 章 人口の現状分析

11. 男女別産業人口と特化係数

男女別の産業人口をみると、男性（就業者数 5,637 人）は農業の就業者が最も多く、次いで建設業、卸売業、小売業と続いています。

女性（同 4,869 人）も農業が最も多く、次いで医療、福祉、卸売業、小売業となっています。

図 23 男女別産業人口と特化係数（2020 年）



資料)総務省「国勢調査」



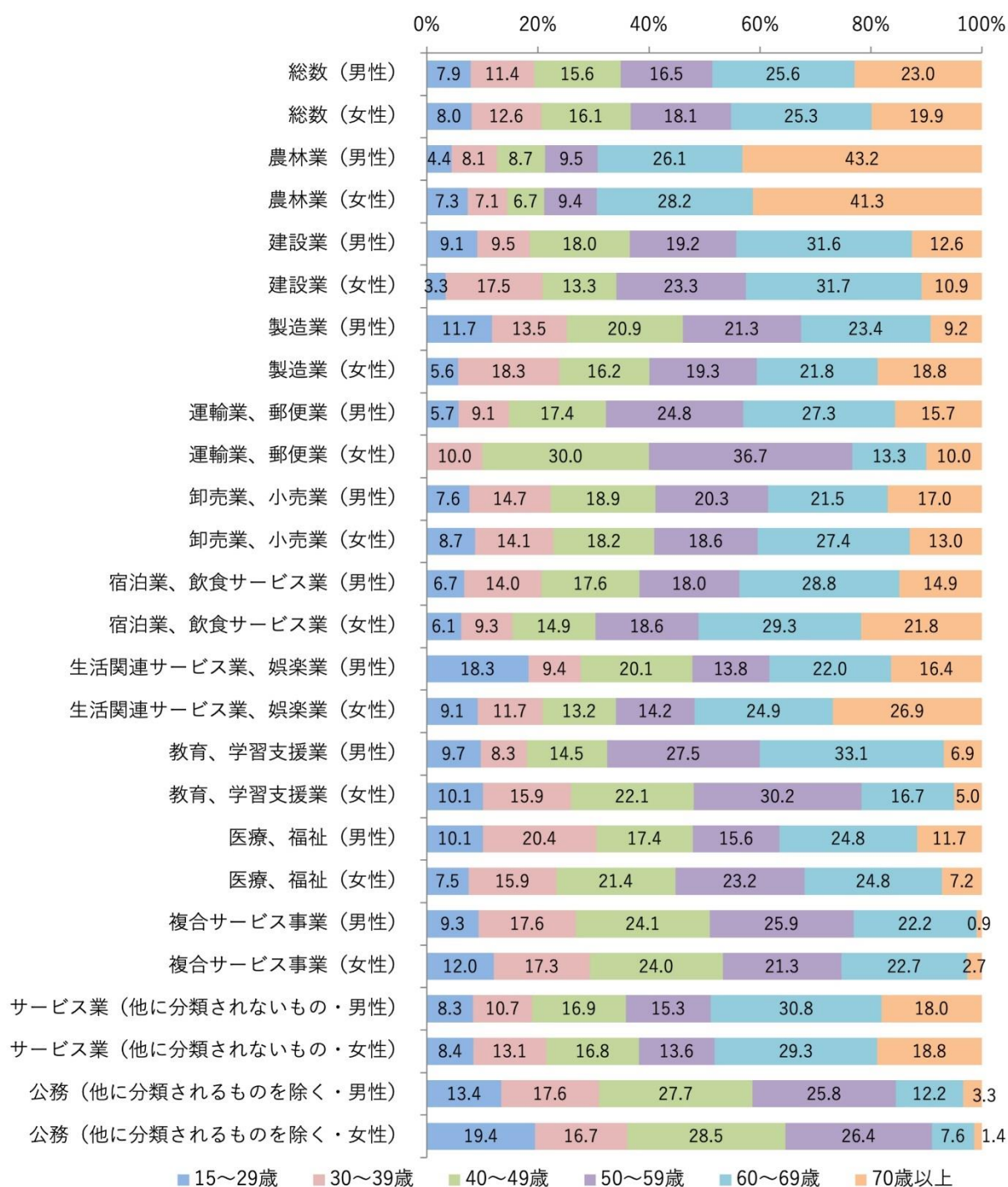


12. 年齢階級別産業人口

男女別に産業別の年齢階級構成比をみると、60歳以上の就業者が最も多いのは農林業となっており、本市の主産業を支えているのは高齢者層といえます。

卸売業、小売業（男女とも）や宿泊業・飲食サービス業（男性）、生活関連サービス業、娯楽業（男性）、公務（男女とも）などは、比較的各年齢階級ともバランスよく就業しています。

図 24 年齢階級別産業人口（2020 年）



資料）総務省「国勢調査」

第 2 章 人口の将来展望

国や県の人口の長期ビジョンや本市の人口構造等を考慮し、竹田市が将来目指す人口規模を展望します。

目標人口の設定において、まずは社会動態の改善に優先して取り組み、人の流れの好循環からポジティブな機運を醸成し、自然増へと繋げていくような施策の展開を図っていきます。孤立しがちな若い世代の交流を支援するとともに、結婚・出産・子育ての希望を叶えるために、若い世代を対象とした住環境、子育て環境の整備を推進します。その結果として、合計特殊出生率の向上を目指します。

国の長期ビジョンでは、2030（令和 12）年までに合計特殊出生率を 1.8 程度、2040（令和 22）年までに人口置換水準である 2.07 程度、同じく大分県の人口ビジョンでは 2033（令和 15）年までに 1.84 程度（県民希望出生率）、2045（令和 27）年までに 2.07 程度まで高めることとしています。

本市では、安心して子育てできる環境づくりに引き続き取り組むなど、結婚から子育てまで切れ目のない、きめ細やかな支援を実施していくことで、合計特殊出生率を 2030（令和 12）年までに 1.63、2033（令和 15）年までに 1.84、それ以降は人口置換水準である 2.07 を目指していくものとします。

さらに社会増減については、地域の強みともいえる農林畜産業と観光産業の集中的な振興や若者・女性が起業へチャレンジできる仕組みづくりなど、稼ぐ仕事の創造や域内の仕事を支えるなどして、人口の転出抑制と転入者数の増加を目指します。また転出先としては、隣接する豊後大野市や大分市が大半を占め、それら 2 市から本市への通勤も多いことから、中心市街地の魅力づくりや定住促進施策を講じて、人口流出に歯止めをかけます。

人口減少を緩やかにし、世代別人口バランスを改善することで持続可能な地域社会を目指し、竹田市の 2050（令和 32）年の総人口 10,540 人維持を目指します。

2050（令和 32）年 目標人口 10,540 人

出生率 2.07、社人研の純移動率から算出される 5 年ごとの移動数に加えて 65 人(男 40 人、女 25 人)増加

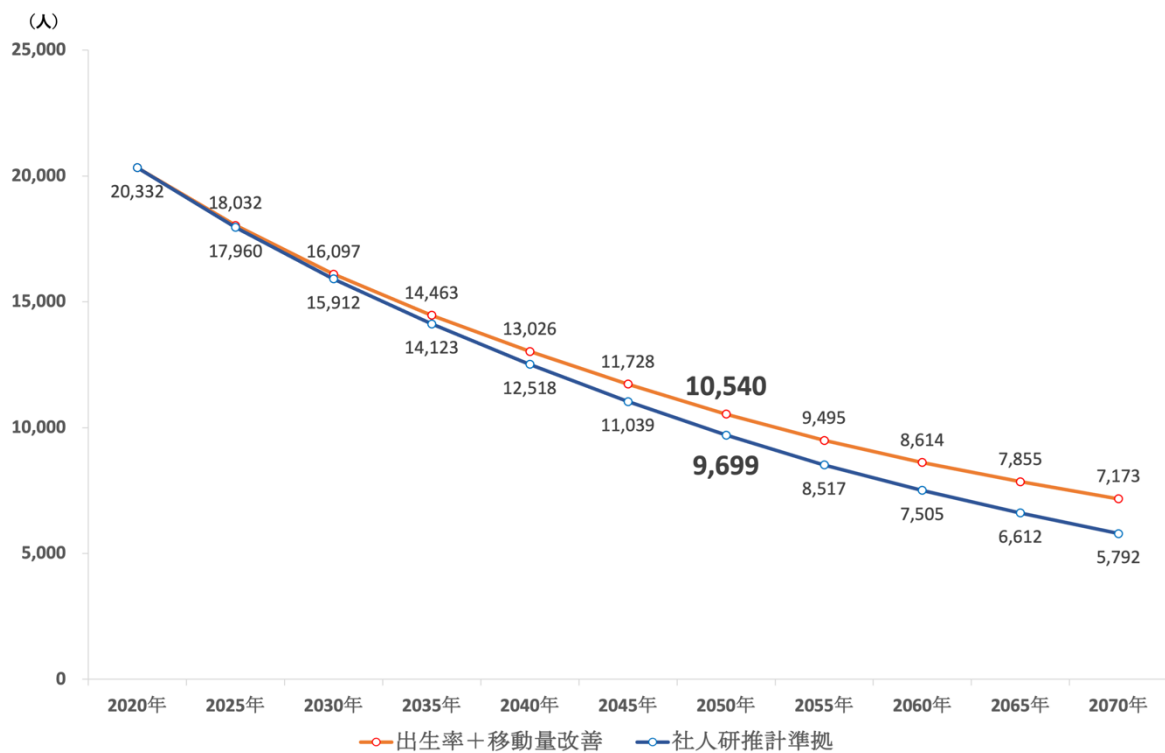




図 25 社人研推計をベースに 5 年ごとの社会増減の目標人数

属性	年齢区分	目標人数
男性	20～24 歳→25～29 歳	転入増 10 人
	25～29 歳→30～34 歳	転入増 10 人
	30～34 歳→35～39 歳	転入増 10 人
	35～39 歳→40～44 歳	転入増 10 人
女性	20～24 歳→25～29 歳	転入増 5 人
	25～29 歳→30～34 歳	転入増 5 人
	30～34 歳→35～39 歳	転入増 5 人
	35～39 歳→40～44 歳	転入増 5 人
	40～44 歳→45～49 歳	転入増 5 人

図 26 人口の将来展望



人口の将来展望